

# 1. 中城さんがスコットランドからのメッセージを仲介された新聞記事

第21827号 (昭和11年5月26日) 毎日小学生新聞 (日刊) 1999年(平成11年)5月26日(水曜日) C

介護保険制度 40歳以上の国民みんなからお金(保険料)をとり、それに国や地方自治体からのお金を合わせて、年をとって働けない人の家に世話をするホームヘルパーを派遣したり、老人ホームに入るのを助けるなどのサービスをします。来年4月にスタートします。どんな世話をしてくれるのかは、申し込みを受けて、専門の人たちが体のマヒの有無、着がえや家での入浴の様子などを確認して決めます。次に、機材準備ができる段階から、残たさりのもっとも長い段階まで6段階で料金を設定し、もっとも長い月に約35万円を限度に、サービスを支けられます。しかし、みんなから集める保険料だけでも2万円いるといわれています。景気がよくない今、給付の額を減らしてはどうかなどの意見が、政府や自民党の中から上がっています。

スコットランドにあるポビー像

スコットランドにも忠犬ハチ公

毎日小学生新聞 MAINICHI

毎日新聞社

亡くなった主人の囃りを待ち、毎日墓に連れ続けた「忠犬ハチ公」みなさんもお話を聞いたことがあると思います。「JR渋谷駅(東京都渋谷区)の改札口前の広場には、ハチ公の銅像が置かれ、観光客が訪れます。実は、このハチ公とよく似た犬が、スコットランドにもいたのです。このほど、ハチ公のもとに「ぜひ交流を」というメッセージが届きました。

今から百四十年ほど前、スコットランドのエディンバラという町に実在したスカイテリア犬ポビーは、主人の死後十四年にわたりお墓を守りました。ポビーの主人は警察官のオールド・ジョックさん。ポビーはジョックさんととても忠実で、仕事の時もいつもいっしょでした。しかし、ジョックさんは病気のためこの世を去ります。ポビーはジョックさんが埋葬された場所から離れようとせず、お墓を守り続けました。また、毎日一時になると、ジョックさんが生きていたころいっしょに通ったコービーハウスへ向かったそうです。

ポビーの死後、このお話は本になり、テレビによって映画化され、記念碑が建てられました。今回、エディンバラにあるポビー像のそばで、おみやげ屋を経営するマット・ヘイルさんから「ハチ公へメッセージを」と、絵本や写真が届き、ハチ公銅像維持会の会長並木印人さんに渡されました。

その仲介に当たったくもん子ども研究所副、中城正亮さんは「二つの話は、動物愛護のお手本です。ポビーの像は、世界の観光客の人気者だし、ハチ公の像は修学旅行のコースにもなっています。いろいろな形で交流を進められませんか」と話しています。

現地から東京へ「交流を」と呼びかけ

## 2. スコットランドのハチ公

グレーフライアーズ・ポビー (Greyfriars Bobby) は、スコットランドの首都エディンバラのグレーフライアーズに実在した犬である。犬種はスカイ・テリア (skye terrier)。ポビーは主人であるエディンバラ市警のジョン・グレイ (John Gray) が 1858 年に死去した後、14 年間その墓の隣に座っていた。スコットランド版の忠犬ハチ公として知られている。



ポビーの飼い主は、エディンバラ市警に夜警として勤務するジョン・グレイだった。二年間片時も離れることはなかった二人だったが、1858年2月15日、ジョン・グレイは結核のために死去。グレイはエディンバラの旧市街にあるグレーフライアーズ教会を取り囲む墓地 (Greyfriars Kirkyard) に埋葬された。グレイより14年長く生きたポビーは、毎日の大半をグレイの墓の傍らで過ごしたと言われている。食事の時には、墓地の裏手にあるレストランを訪れて食事をもらっていたし、おそらく冬には近くの民家で寒さをしのいでいたと思われる。

1867年、飼い主のいない犬は処分されるべきであるという判断がなされたが、エディンバラ市長であり、スコットランド動物虐待防止協会の理事でもあったウィリアム・チェンバースは、ポビーのライセンスを更新し、市議会を新たな飼い主とすることでポビーを保護した。代わりに、ポビーはグレーフライアーズ教会墓地の門のすぐ外側に埋葬された。そこは、飼い主であるジョン・グレイの墓からほど近い場所であった。ポビーの墓には赤い御影石で作られた墓標が立っている。これは、1981年5月13日

に、スコットランド・ドッグ・エイド協会が贈り、グロスター公爵リチャードによって除幕式が行われたものである。そこにはこう書かれている。「グレーフライヤーズ・ボビー - 1872年1月14日死去 - 16歳 - 彼は、主人への忠誠と愛情とは何かということ、私たちに教えてくれる。」

- **英語版ウキペディアの Greyfriars Bobby** の説明記事の最後に、飼い主が死亡した後も忠誠を尽くした犬がリストされており、ボビーとハチ公が並んで紹介されている。

① **Greyfriars Bobby**, a Skye Terrier in Edinburgh, Scotland, was loyal to his master long after his master's death in 1858. Until Bobby's death 14 years later, he reportedly spent every night at his master's grave. A statue in memorial of Greyfriars Bobby was erected near the graveyard. Several films have been made dramatising the life of Greyfriars Bobby, and in folklore he is popularly remembered throughout Scotland as a symbol of loyalty.

URL : [https://en.wikipedia.org/wiki/Greyfriars\\_Bobby](https://en.wikipedia.org/wiki/Greyfriars_Bobby)

② **Hachikō**, an Akita who became a symbol of loyalty in Japan, is now honored by a statue in Tokyo. Hachikō is famous for his loyalty to his long dead master Hidesaburō Ueno, by returning to the train station and waiting for his return, every day for the next nine years during the time the train was scheduled to arrive.

URL : <https://en.wikipedia.org/wiki/Hachik%C5%8D>

注意事項として、**JR 東日本の八王子と高崎を結ぶ路線の事は、「はちこうせん」をご覧ください** : 親切ですね～！

*For the JR East line connecting Hachiōji with Takasaki, see Hachikō Line.*

